

# 来春 宝塚に住宅型有老



▲物件の完成予想図

## ナッセ 高齢者住宅参入



足立浩 社長

ナッセ(大阪市)は新たに高齢者住宅事業に参入する。来年4月、兵庫県宝塚市に住宅型有料老人ホーム「ナッセケアベイス宝塚」を開設する。

アクセスは阪急逆瀬川駅より徒歩3分。居室数は35。そのうち25室をパーキンソン病患者

者及び末期ガンなどのターミナル期の入居者用とし、リハビリテーション・医療の提供に注力するのが特徴。

「これまで、当社はリハビリ特化型のデイサービス、訪問看護事

業などを手がけてきた。利用者や利用を希望する人の中にパーキンソン病で在宅生活が困難な人が増えており、そうした人が安心して生活できる場が必要と考えました。既存

のサービスと連携することで在宅からターミナル期までワンストップで対応できる体制を整えます」(同社ウェルネスケア事業本部亀井宏樹部長)

ホームには自社運営

の訪問介護・看護事業所を併設し、看護師は24時間365日常駐体制を実現。日中は、ターミナル期の入居者2名に対し看護師1名体制を目指す。リハビリは理学療法士・作業療法

士・言語聴覚士による個別リハビリのほか、音刺激を活用した全身運動体操を主とする集団リハビリを行う。

入居費用は、基本的なプラン(厚生労働省が定める疾患別表7の患者もしくはホーエン・ヤールの重症度分類がステージ3以上のパーキンソン病患者)の場合、家賃・管理費・食費合計で1ヵ月10万7000円・敷金8万円。専門的な医療やリハビリ希望者向けのプランが月16万1840円・敷金14万円。ケアルダーライフ協会(大

## パーキンソン病に対応

がん患者のサポートなどを目的に活動する一般社団法人らふ(大阪府泉野市)と、介護者(ケアラー)を支援する民間資格「お節介士」の育成を手がける一般社団法人日本エ

棟のペースで開設する予定。基本的には建物を一括借り上げるスタイルだが、既存の高齢者住宅の運営承継も検討する。規模は40室前後を希望。

らふ・JERA合併

阪市)は、10月31日合併した。合併後の名称は一般社団法人らふ。代表理事は、旧らふの蓮尾久美代表理事が務める。日本エルダーライフ協会は、らふ内の「お節介士認定機関」として残る。

万博会場内では、現職の介護職が来場者の車椅子を押すなど日本の介護サービスの魅力の世界中の人たちに知ってもらうための様々な仕掛けを考えています。そのためには、現在介護に携わっている人たちに協力してもらうことが不可欠です。介護甲子園当日を、その協力を募る場にするなど、万博への足掛かりにしていきたいと思

います。

# 「介護甲子園」来年

## 来春エントリー受付開始



平栗潤一 理事長

### 日本介護協会

野球の試合以外原則利用不可能

甲子園球場で開催が決まった経緯を教えてください。

平栗 当協会の前理事

長で、介護甲子園の発案者である左敬真は「イベント名に『甲子園』という名前がついている以上、いつかは甲子園球場で開催したい」という夢を持っていました。しかし、甲子園球場は、芝の養生の関係などもあり、野球の試合以外での使用は基本的に認めておらず、非常にハードルが高いものでした。実際

今回の、たまたま縁があつてプレゼンテーションを行ったところ、使用が認められました。正式な日程は来年2月に決定しますが、プロ野球シーズン終了後の来年11月に開催します。来年は甲子園球場ができてちょうど100年だそうです。大きな節目の年に開催できることは大きな喜びです。

大まかなスケジュールとしては、来年4月にエントリー受け付け開始、6月に予選を行い、9月には出場事業

の都合もあり介護甲子園の来場者は2000人程度でした。甲子園球場のキャパシティはその20倍以上の4万7000人です。是非ともそこを満席にしたいと思

「そのほか、どのようなことを考えていますか。」

「万博会場内では、現職の介護職が来場者の車椅子を押すなど日本の介護サービスの魅力の世界中の人たちに知ってもらうための様々な仕掛けを考えています。そのためには、現在介護に携わっている人たちに協力してもらうことが不可欠です。介護甲子園当日を、その協力を募る場にするなど、万博への足掛かりにしていきたいと思

います。

般社団法人日本介護協会(神戸市)の平栗潤一理事長に話を聞いた。

か、甲子園球場での開催実績はありません。

のリアルイベントになります。3年前までと同様に、全国の介護事業所の中から予選を勝ち抜いた事業所がステージ上でプレゼンテーションを行うスタイルを踏襲しつつ、他薦による招待事業所にもプレゼンテーションをしてもらう予定です。

平栗 これまでは会場

訴求するイベントにしていきたくと考えています。

具体的仕掛けについてはこれから考えていきますが、介護業界や周辺産業の人たちから「甲子園球場でこんなことをしたい」という希望やアイデアがあれば、どんどん募っていきます。